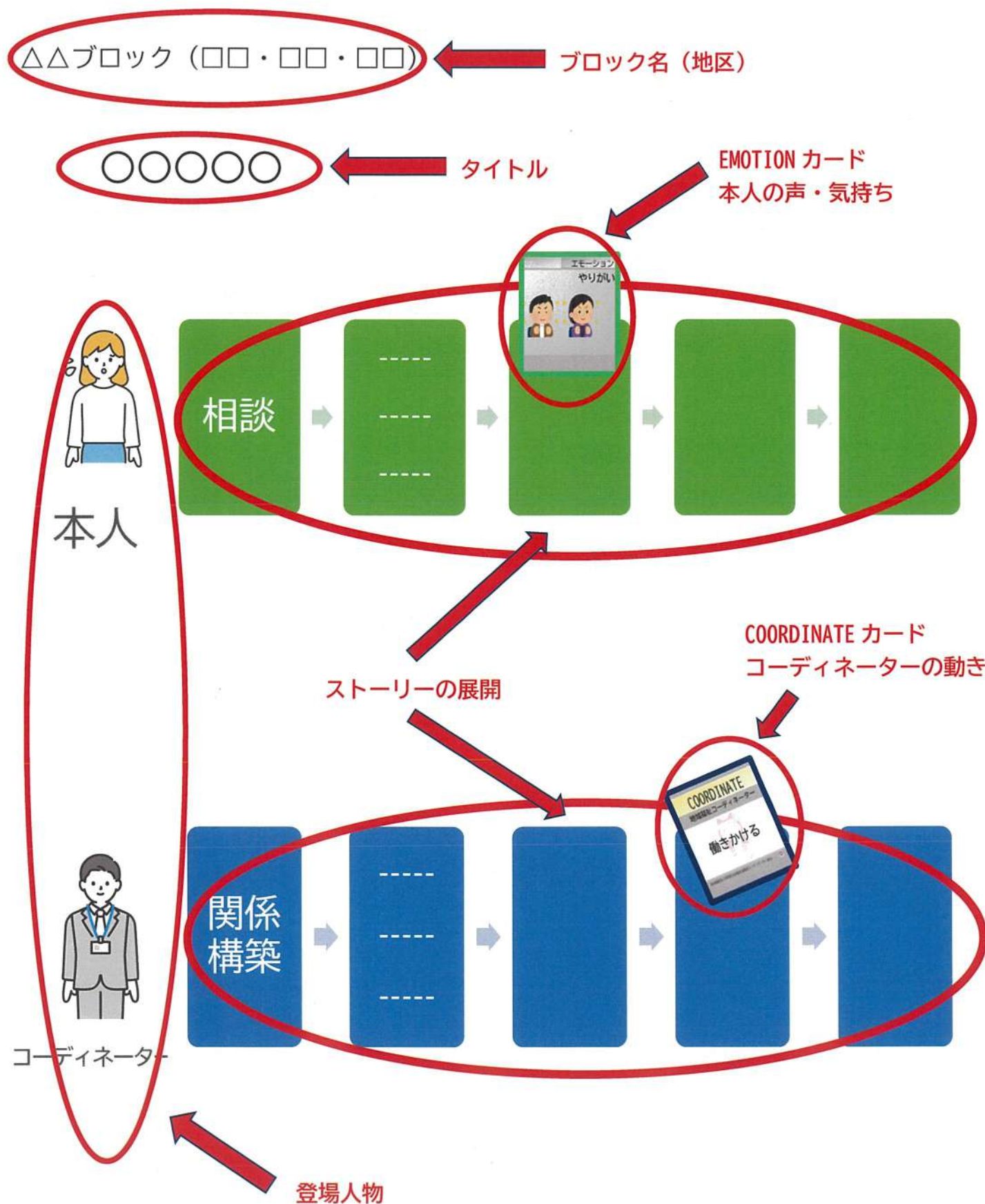


2

地域福祉の実践を 記録した ドキュメンタリー

各ブロックの「ストーリー」の見方説明



カードの説明

①COORDINATE(コーディネート)カード

台東社協コーディネーターの地域支援における役割を【社会福祉法人東京都社会福祉協議会が発行した「区市町村社協における地域福祉コーディネーターの必要性と養成について」】に基づき、「地域アセスメント」、「地域との関係づくり」、「広げる」、「形づくる」、「支援する」、「働きかける」の6つに分類しました。コーディネーターがどのように活動していたかを「見える化」しました。

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

地域アセスメント

- ・地域の社会資源（施設、事業所、町会・自治会、ボランティアグループ、NPO、商店、学校、企業等）を把握する
- ・地域の特徴（人口・年齢層、世帯数・世帯構成、高齢化率、地域の歴史・文化等）を調べる
- ・地域を歩き、地理や雰囲気、住民の様子を把握する
- ・住民が集まる集まる場に出向き、地域の基盤組織やキーパーソンを見つけ、住民間の関係性を見極める
- ・地域のキーパーソンと話し、地域の情報やニーズを収集する

01/06

社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

地域との関係づくり

- ・地域の会議や行事に顔を出して、顔を覚えてもらう
- ・キーパーソンと会話し、顔の見える関係を築く
- ・継続的な関わりを維持するために、次につながる機会を作る
- ・社協やコーディネーターの役割を知らせる

02/06

社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

広げる

- ・地域の中で関心を持つ人を増やす⇒活動に誘う
- ・地域へ広く広報する
- ⇒地域の活動や地域の課題を広報する
- ・自分たちの地域の課題は自分たちで何とかしたいという意識のある人を講座等により発掘する

03/06

社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

働きかける

- ・地域で課題を解決するために関係機関・団体に協働を持ちかける・根回しをする
- ・連携が必要な機関や団体をつなぐ

04/06

社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

形づくる

- ・問題を発見する仕組みづくり
- ・発見した問題の相談先の確保
- ・地域単位の居場所づくり
- ・地域生活圏での解決・支援システムづくり
- ・地域の問題を話し合う場づくり
- ・住民による小地域の基盤組織づくり

05/06

社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

COORDINATE

地域福祉コーディネーター サポート

支援する

- ・問題が表れたときには協働的に問題解決に動く
- ・住民の活動場所には定期的に顔を出し、活動が維持できるように支援する
- ・小地域の生活支援の仕組みで解決できない問題は、専門職へ責任をもってつなぐ
- ・地域の問題を話し合う場に参加し、必要に応じてファシリテートする
- ・地域の問題に取り組む団体等が自発的に、継続的に活動できるように運営の相談などを行う

06/06

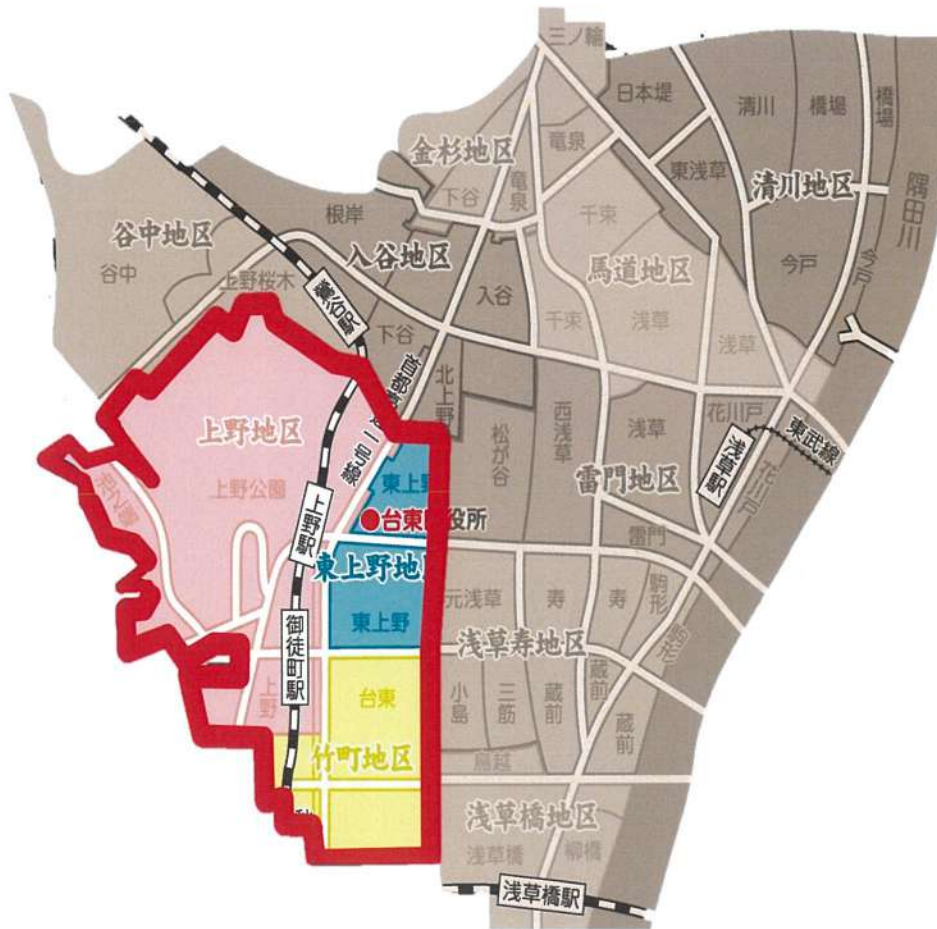
社会福祉法人台東区社会福祉協議会コーディネーター担当

②EMOTION(効果)カード

支援を通して運営者や相談者等の声を「EMOTION(効果)カード」として表現しました。その中で、「あんしん」、「たのしい!」、「ためになる」、「ほっとする」、「やりがい」、「ゆったり・のんびり・自分のペースで」、「助かっている(感謝)」というポジティブな声と、「心配」、「不安」、「憂鬱」、「後悔」、「悲しい」、「寂しい」というネガティブな声に分類しました。



（竹町・東上野・上野）



YOSHIKO CHIGASAKI

<登場人物>



Aさん



Bさん



地域の子どもたち



このシーンに注目！

Aブロックを担当した千ヶ崎です。今回私は地域住民と地域活動のマッチングを取り上げました。

私が特に感動した場面は、Aさんが自身の好きなことや過去の趣味を話し出した瞬間です。Aさんの特技がBさんの求めていた人材の人物像と合致した時には胸が熱くなりました。

現在、地域の子どもたちのために、「次につなげる、次につなげる」活動が展開されています!!

3年という長い年月を経て出会った2人の想いとは？

そして、
バトンは
渡される

A-SAN

B-SAN

KODOMOTACHI

COMMUNITY SOCIAL WORKER(CHIIKIFUKUSHIKODHINE-TA-)HA
A-SAN TO B-SAN NO MACHINNGUWOOKONAIMASHITA
DEAIKARA KATUDOUHENO TENKAIMADEWO OTANOSHIMIKUDASAI



「子育て世帯のために愛着のある学生服や体操着を
バトンタッチするお手伝いをしたい」

「大したことはできないの…でも…
少しでも人の役に立てるようなことをしたい」



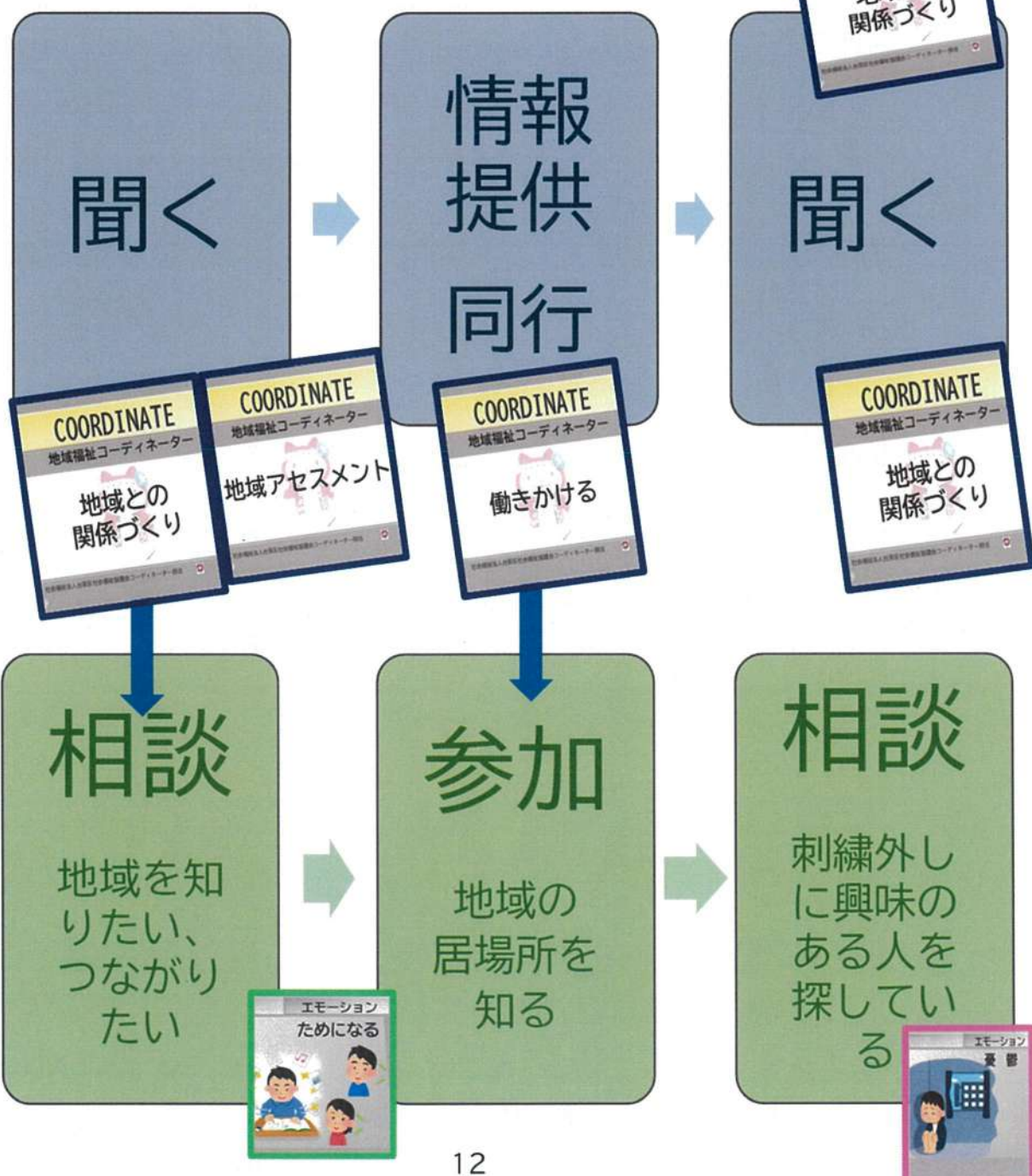
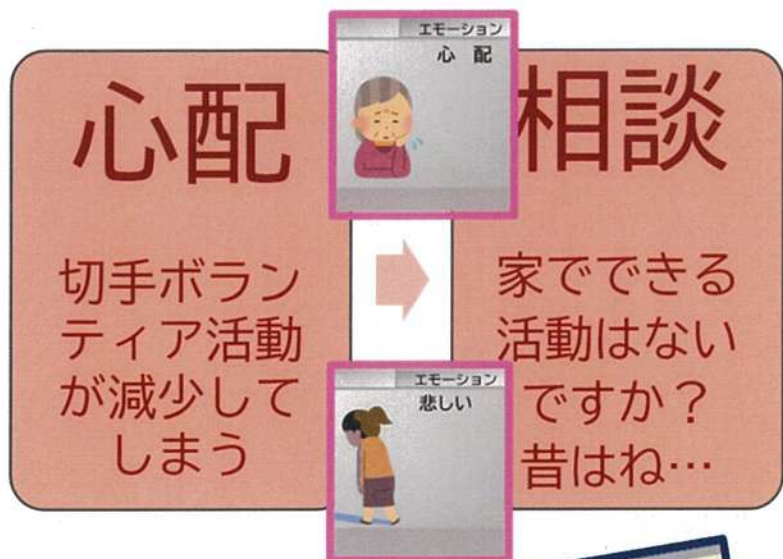
バトンは渡される 2人の想いをのせて

切手の減少に伴い、「楽しくやってきた切手ボランティア活動ができなくなってしまうかもしれないの…」Aさんがつぶやいた一言が、新しい地域活動への扉を開きました。元々、小物づくりが得意で、手先が器用だったAさんと、細かい作業が得意な人を探し求めているBさんの出会いの瞬間から新しい活動が始まりました。AさんとBさんの想いから紡ぎ出された体操着や制服が、まちに暮らす子どもたちの生活につながっていく…

このまちで暮らす2人のそれぞれの想いをのせて、バトンは渡されました。
今後の活動の展開を乞うご期待ください。

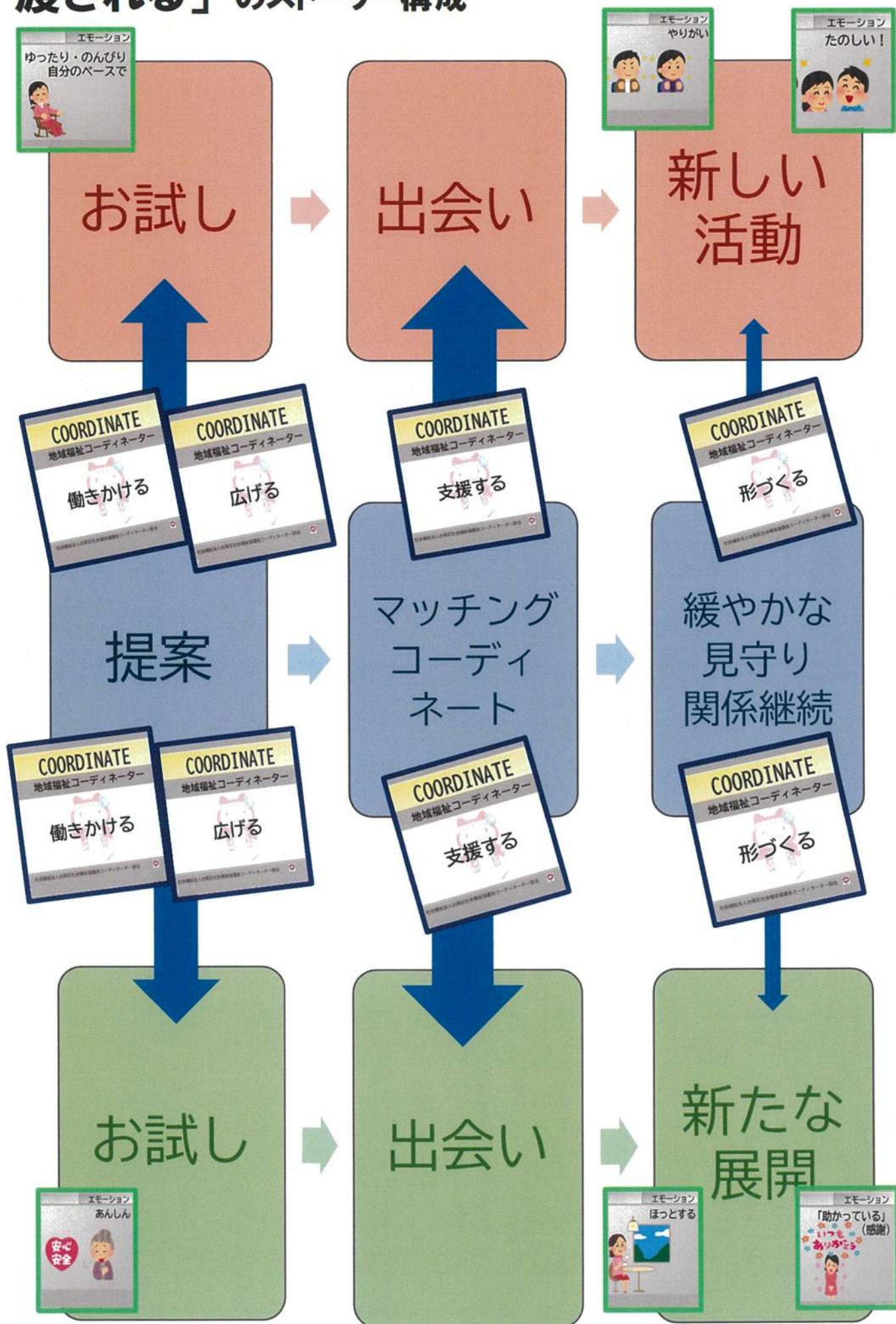


Aさん



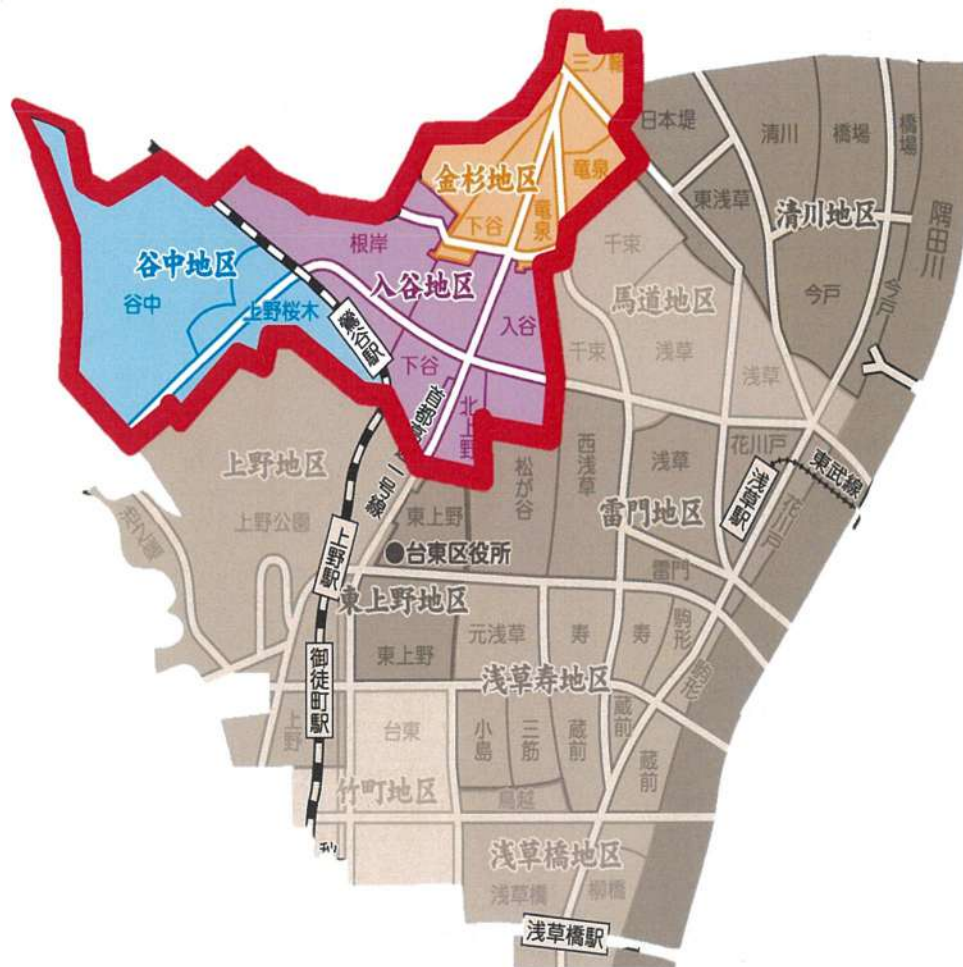
Bさん

渡される」のストーリー構成



B ブロック

(入谷・金杉・谷中)



SHUHEI KODAMA

< 登場人物 >



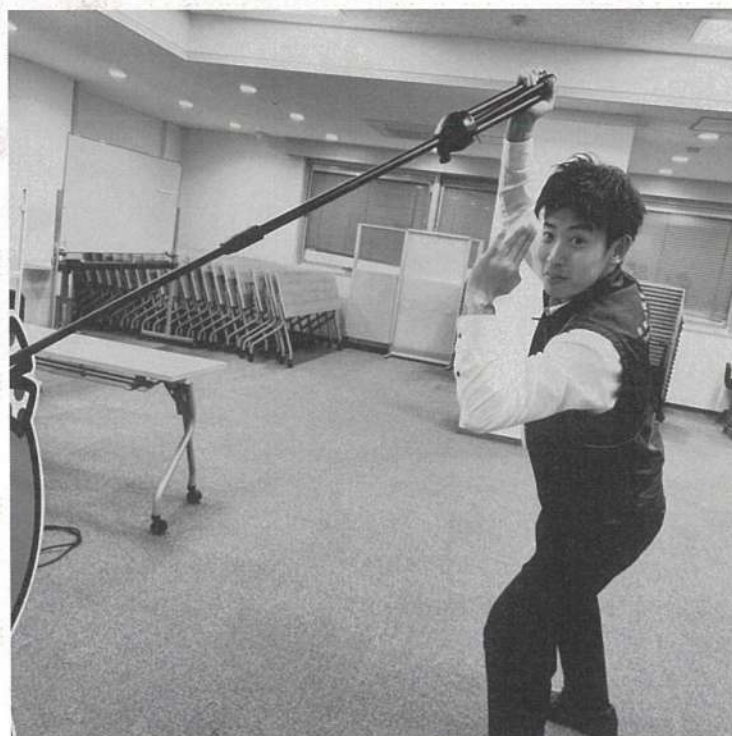
Aさん
(RESPEC利用者)



RESPECスタッフ
(障害者事業所)



LinoLino
(フラワーアートショップ)



このシーンに注目！

Bブロックを担当した小玉です。今回私はRESPEC（障害者事業所）とLINOLINO（フラワーアートショップ）がコラボした体験活動について取り上げました。

その中で、特にRESPECの利用者さんの特性に合わせLINOLINOの方が活動内容を考えてくださるシーンに感動しました。今後も地域の方が、自分の好きなことや得意なことを表現できる機会をガンガン作っていきたいと思っています！



小玉 周平





始まりはここから

とある事業所とフラワーアートショップのコラボ活動、

Mazuha konokijinkyouyokasitekudasatta respecsan linolinosan
hontounikanashamousingemasu minasannoatatakaikimochini
watashiha kokoroganagomimasita
zhrinoshunikanikonosakuhinwo mitemoraitaidesu



地域との交流を大事にしているRESPEC 上野桜木 (障害福祉サービスの自立訓練・生活訓練事業所) が 新たに取り組むアートの体験活動とは—

障害者事業所のRESPEC上野桜木が、今年度新たな取り組みをしている。それは、フラワーアートショップLINOLINOでの体験活動だ。

区内のとあるイベントがきっかけでLINOLINOは台東社協とつながり、障害者の就労体験活動に興味を示していた。

そこで、地域福祉コーディネーターがLINOLINOとRESPECをつなぎ、話し合いを重ねた結果、令和7年4月より活動が始まった。

初回の活動では、RESPECの利用者Aさんが以前からアクセサリー好きであることを語られた。

レジンを作った後のAさんは、自身が作った商品に目を輝かせながらスタッフたちと楽しそうに会話する。

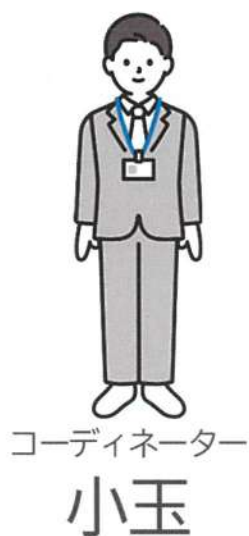
今後の展開に乞うご期待。

TO BE CONTINUE >>>





RESPEC



【社協内の
情報共有】
参加支援活
動に興味を
示す企業に
ついて



聞く

LinoLinoへ
訪問（関係
構築）・
活動の依頼
内容につい
て確認



RESPECに
体験活動の
プログラム
として提案

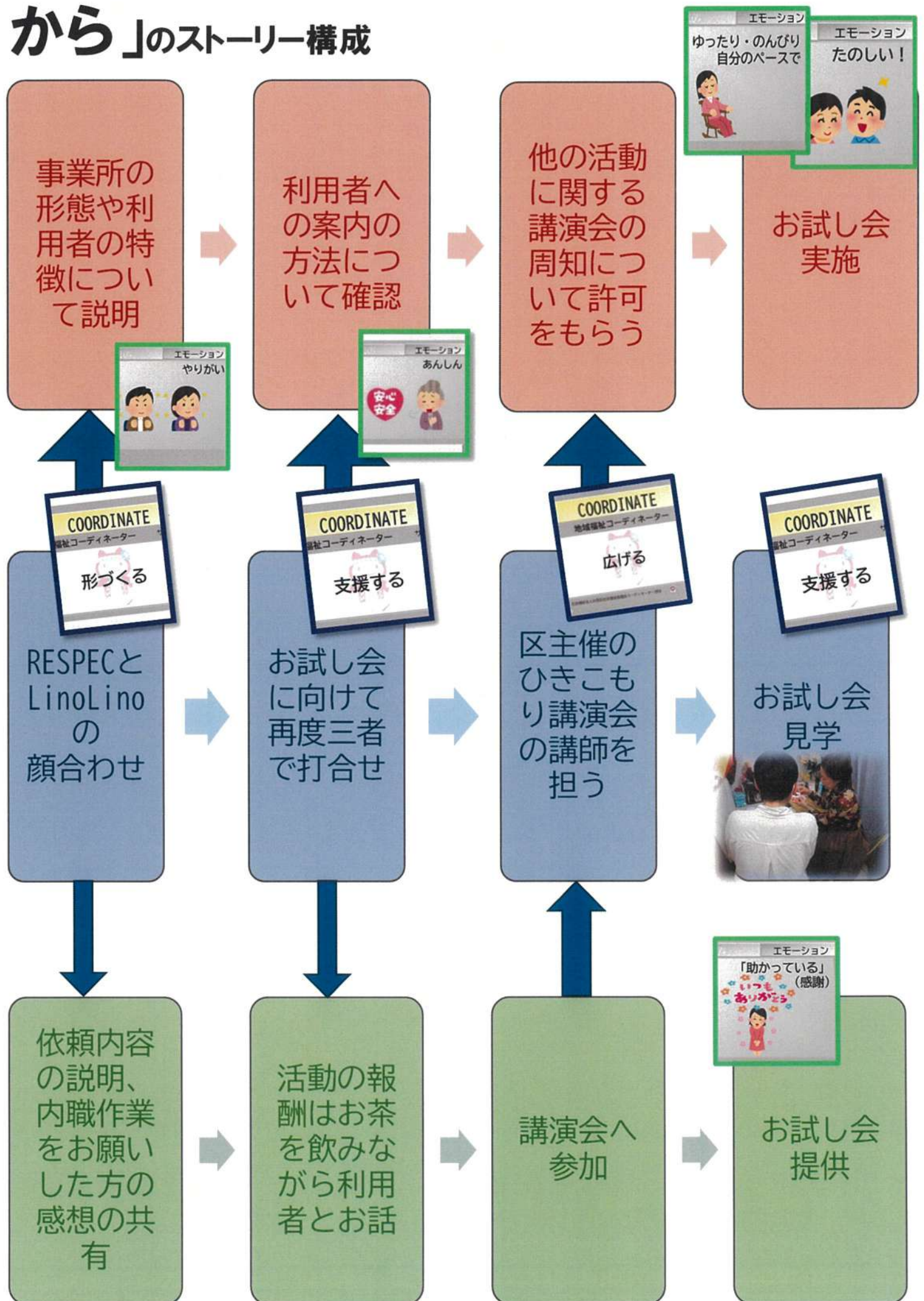
新たな
体験活動
に興味を
示す



LinoLino

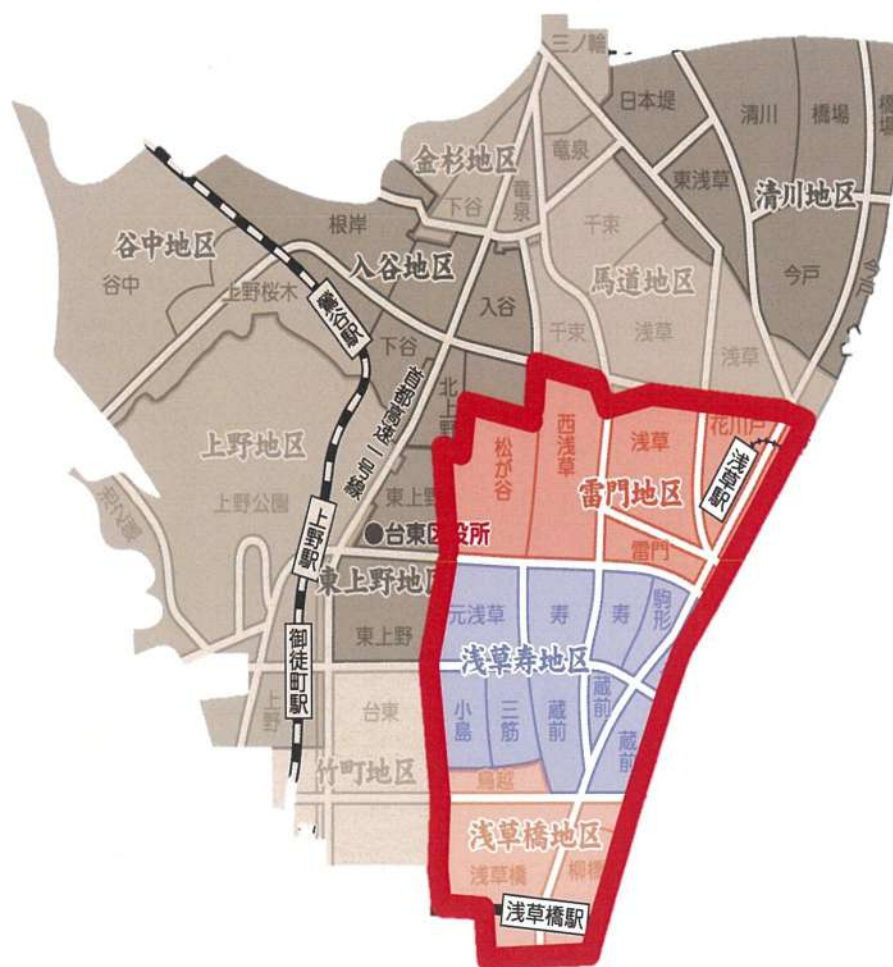
スタッフ
より「少
しでも地
域の方の
役に立ち
たい」
という話

から」のストーリー構成



C ブロック

(浅草橋・浅草寿・雷門)



※ご本人の了承を得たうえで実名を表記しております。

MAMI TAJIMA

<登場人物>



コアメンバー

(寿一ほっとラインの運営者)



メンバー



江川さん

(メンバー・講師役)



このシーンに注目！

Cブロックを担当した田島です。
今回私は「寿一ほっとライン」について取り上げました。

イベントを通じて、メンバーみなさんの「参加する姿」から、より「主体的に動く姿」、「横山さん主導」から「メンバーみなさんの主導」に変わり行く姿に非常に感動いたしました！

イベント後のみなさんの表情や、次の活動への積極的な動きなど、みなさんの変化を一番近くで感じることができたことは、私にとってかけがえのない思い出です。

感動をありがとうございます。



田島 麻美



上品なマダムがあんなことを言うなんて。
溢れる地域愛を記録したドキュメント

向こう三軒両隣

One For ALL, ALL For One

DIRECTED BY MAMI TAJIMA

KOTOITIHOTTORAINN | MUKOUSANNKENN RYOUDONARI | KOYOITIHOTTORAINN | MUKOUSANNKENN
RYOUDONARI | KOTOITIHOTTORAINN | MUKOUSANNKENN RYOUDONARI | KOTOITINOMINASAMM
DAISUKIDESU | KOKOMADEYONNDEIRUKATA IRUNOKANA | KOTOITIHOTTORAINN | MUKOUSANNKENN
RYOUDONARI | TAKUSANNNOKANNDYOUWO ARIGATOUGOZAIMASU | KOTOITIHOTTORAINN |

COMING SOON THIS YEAR



一人じゃない、 だってみんながいる

横山さん（民生委員）の小さな気付きから生まれた「寿一ほっとライン」。この夏、これまでの経験やイベントを通じて、横山さん主導からメンバー全員主導へと変化を遂げる。

冬の訪問で得た地域住民の声をもとに、夏に「災害時のトイレ」をテーマにしてイベントを行うことになった寿一ほっとライン。当日講師役を務める江川さんは「私で良いのかしら、、」と不安を漏らす。

そんななか、まずはメンバー間でのプレ開催。江川さんを講師に、メンバーみんなで体験しながら本番に向けて練習や話し合い。そして迎えた当日。そこには江川さんを筆頭にメンバーみんなが講師として輝く姿があった。

悩み、学び、話し、そして笑顔に。地域で輝く「寿一ほっとライン」から目が離せないー！





メンバー

講師役の
江川さん
の不安

プレ会に
積極的に
参加し、
学び合う



コアメンバー

講師役の
提案

コアメン
バー会議

メンバー
間でのプ
レ開催



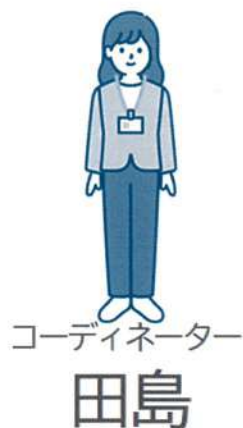
定期訪問

聞<

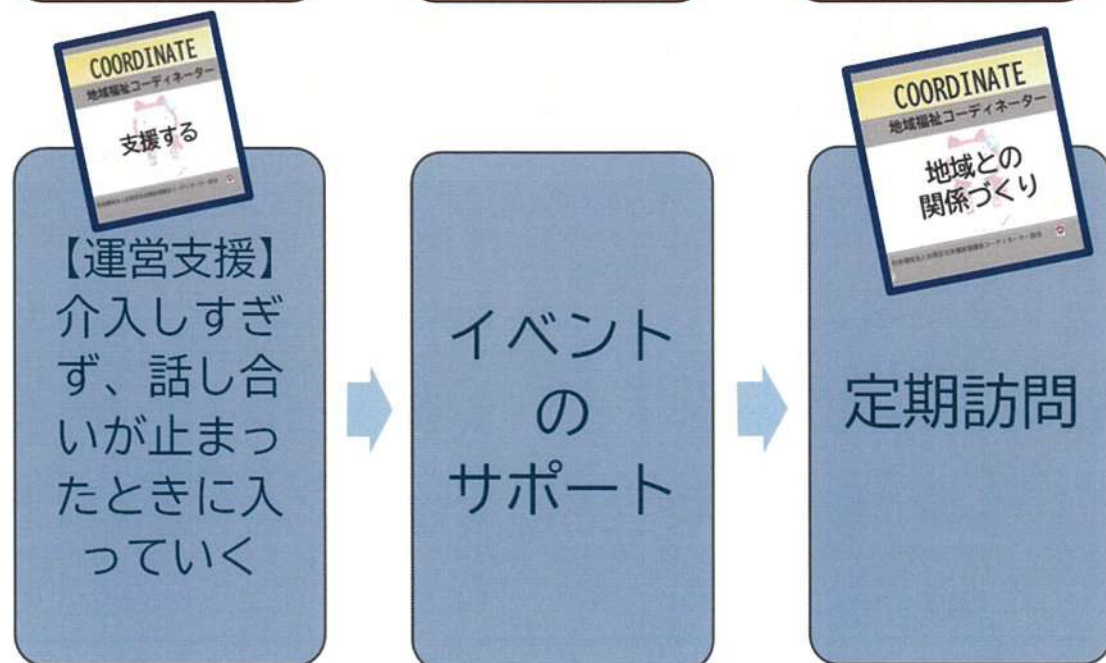
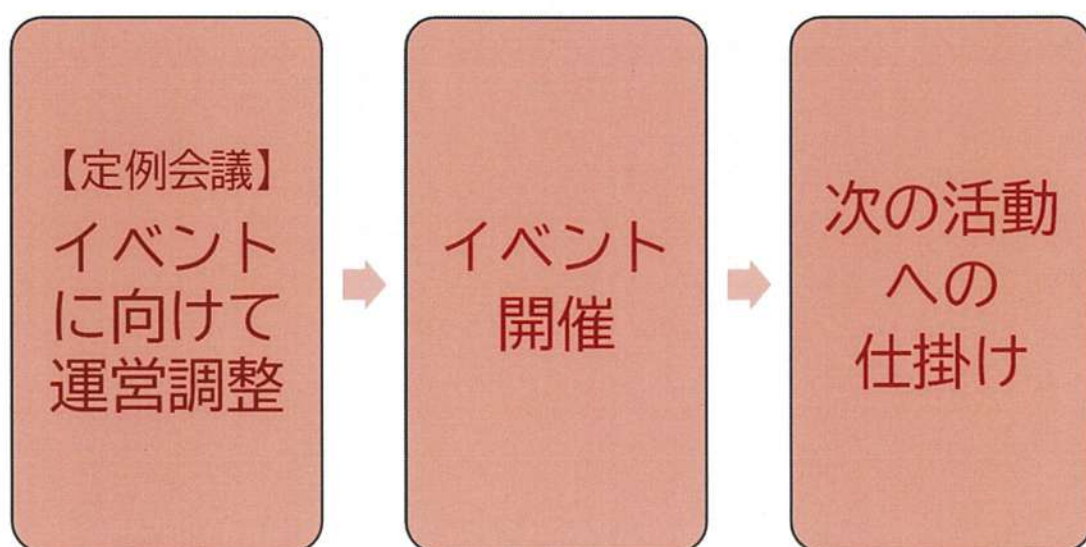
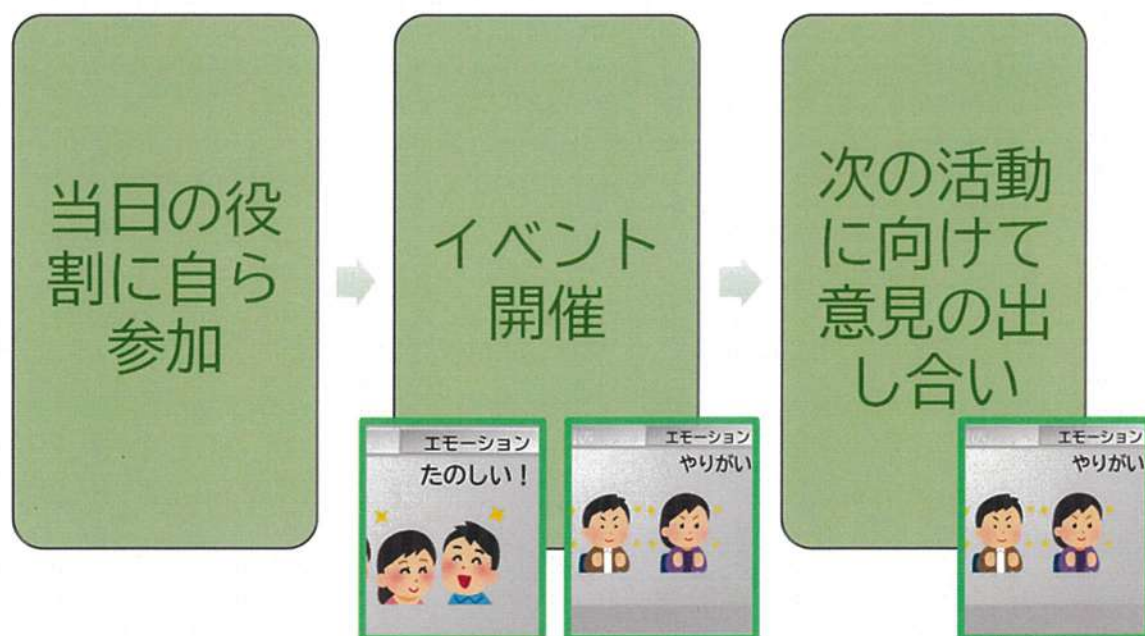
プレ会に向
けて、当日
の流れや準
備品等の
確認



定期訪問

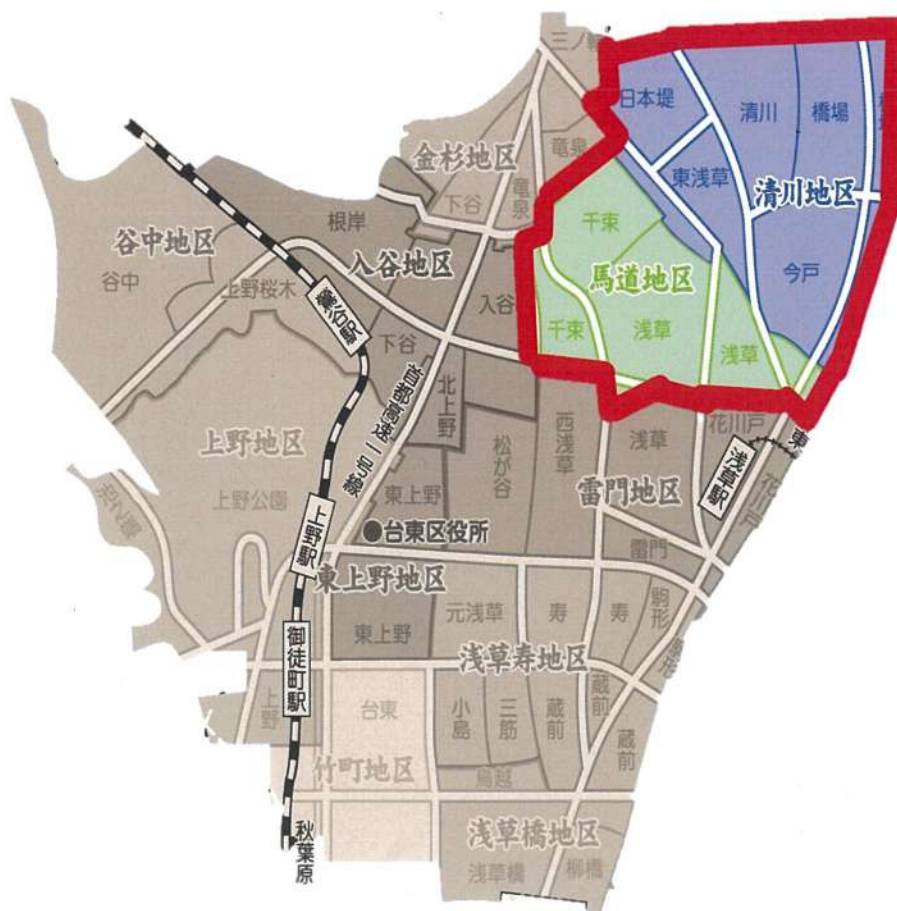


3軒両隣」のストーリー構成



D ブロック

(馬道・清川)



※ご本人・保護者の了承を得たうえで実名を表記しております。
実名を表記された思いを合わせてご覧いただけますと幸いです。

SHINYA ITO

<登場人物>



藤掛 靖元
(元会社経営者)



グレゴリー
(小5の男子児童)



高橋 ユミ子
(元小学校教員)



高橋 礼子
(民生委員)



このシーンに注目！

Dブロックを担当した伊藤です。
今回私は「清川つながり会」について取り上げました。感動で涙腺が緩みっぱなしだった私が特に感動したのは運営者の1人であるTさんから勉強に対する熱意を問われたグレゴリー君が過去に勉強で挫折してしまったこと、それでも勉強したいと本音を語ってくれたシーンです。そのグレゴリー君の言葉で運営側がより一層団結し、「グレゴリー君のために」という合言葉のもと、今現在も活動が展開されています。



伊藤 慎哉





さあ、地域に出よう

最強のふたり

ルブキン・グレゴリー × 藤掛靖元 × 高橋ユミ子 × 高橋礼子

僕を見て

台東社協Dブロック

fujikakesan,yumikosan,reikosan itumo hontouni arigatougozaimasu.
sosite mizusirazu no watasi wo kokoroyoku ukeiretekureta G kun G kun no okasama arigatougozaimasu.
kokoni kakikirenai takusan no katagata no ochikarazoe ni fukaku kansha mouslagemasu.

それは地域の子どもと住民との出合いの物語。

こんなにも愛おしい地域を見たことがあるか。

令和6年度感動NO.1!

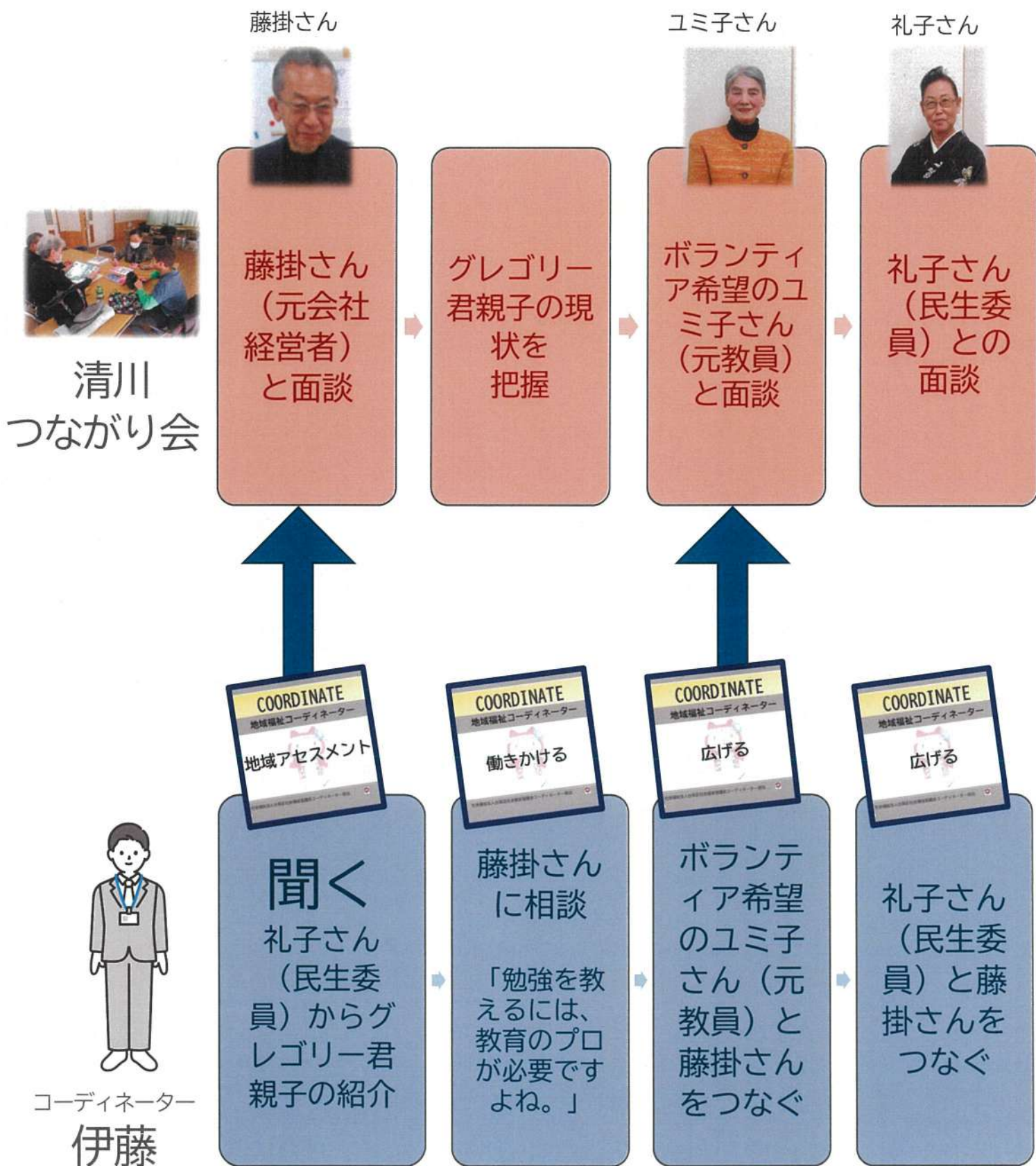
幸福な衝撃！奇跡の実話！



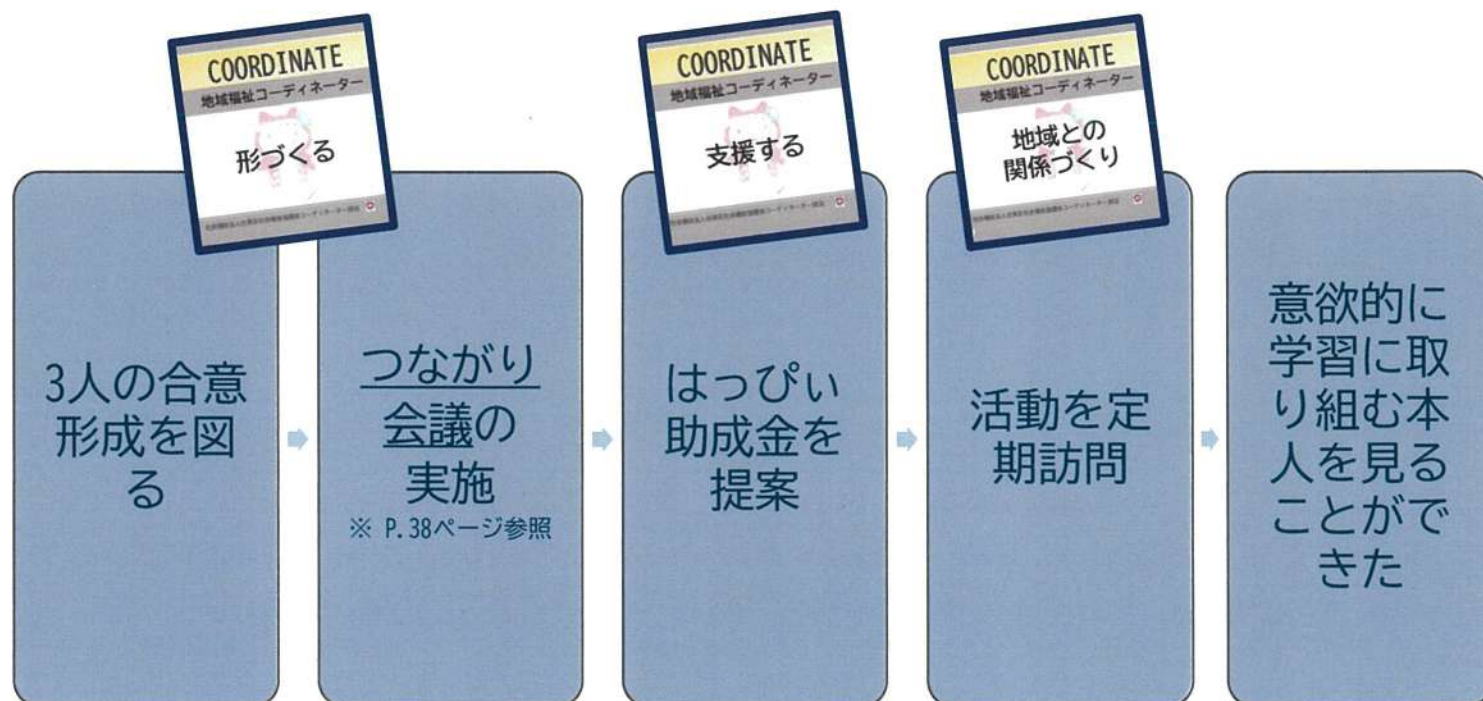
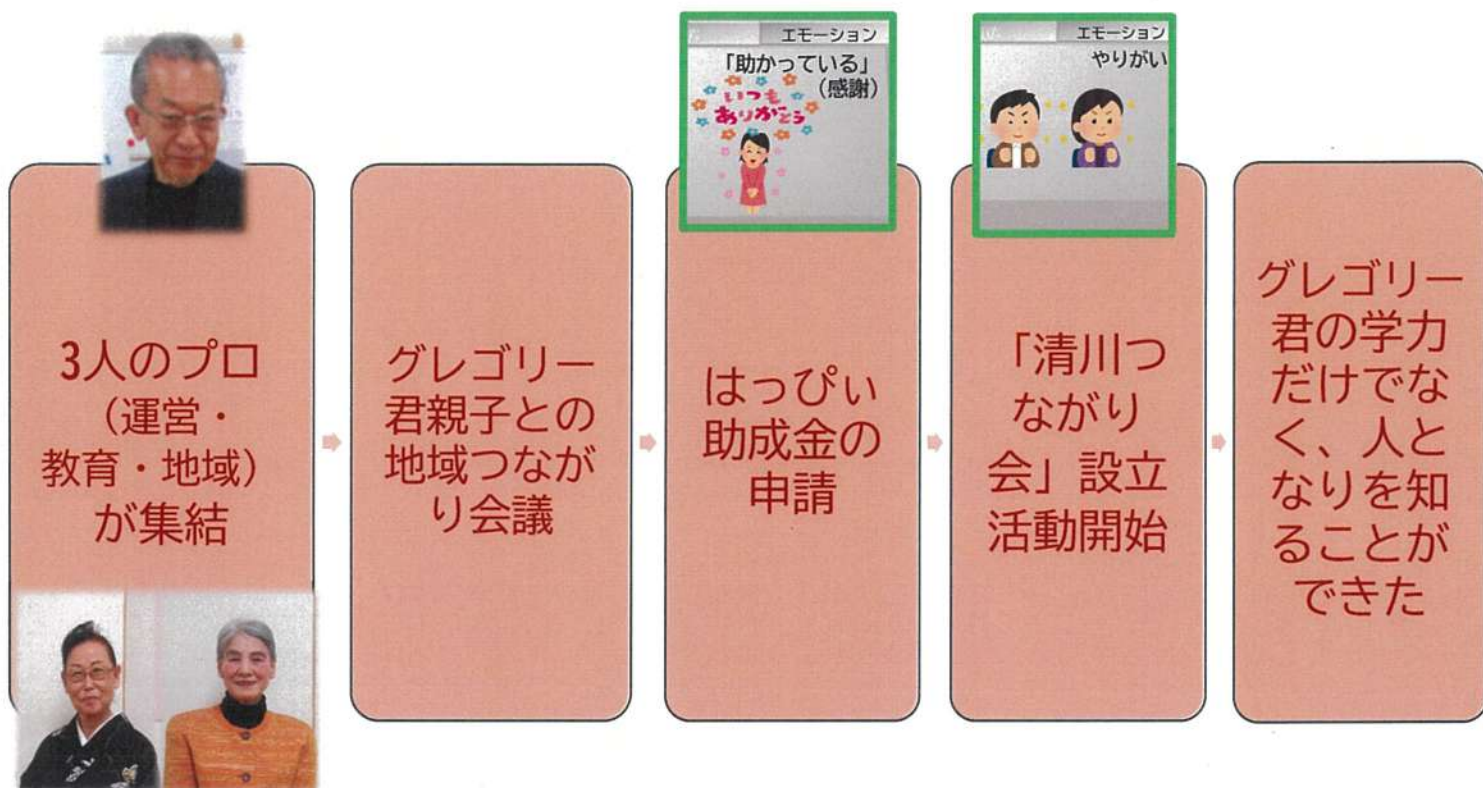
日本人の元会社経営者と ウクライナ人の小学生 出会うはずのないふたりに起こった 最高の奇跡とはー？

ロシアとの紛争で日本に避難してきたグレゴリーは、なかなか日本の学校生活に馴染めずにいた。そんな時に「力になりたい」と語る藤掛と出会う。そんな熱き想いが、やがて元教員や民生委員をも巻き込み、「グレ君のために！」を合言葉に「清川つながり会」が発足する。試行錯誤を繰り返しながら一步步取り組んでいるが、果たしてー。地域はこんなにも予測不可能で、こんなにも垣根がなく、こんなにも心が躍り、こんなにも笑えて、すごく温かい気持ちになれる！





ふたり」のストーリー構成



特別コラム

「係長の視点から語る4ブロック」

コーディネーター担当係長
渡邊 大輔

「いやあ、地域福祉って本当にいいもんですね」

4つのブロックに4人の地域福祉コーディネーターから代表的なストーリー（事例）を映画になぞらえ報告してもらいました。

みなさんはどう受け止められたでしょうか？まだ続きが見たい、これからどうなるのかなど関心を持っていただければ幸いです。

地域福祉コーディネーターは平成29年度（2017年）に2名の職員からスタートしました。途中コロナ禍もあり地域づくりが止まってしまいましたが、それでも1人1人の職員が地域福祉コーディネーターの特徴でもある【聞く職人】として、地域に出向き、困りごとや心配なこと、やってみたいことなど様々なことを【聞いて】きました。

まとめ

PRODUCER

DAISUKE WATANABE



1つ1つの相談では解決が難しいものも、何かの拍子に思わぬ方向へ転換し、新たな活動につながるといった事例もありました。

また、ここでは掲載しきれないくらい素敵なストーリーもあります。その反面、うまくつなげなかったものや、まだ支援の糸口が見つからないものもあります。それでも糸は切らず、細くなっても紡ぎ続けることでまた新たな出会いやストーリーが生まれると信じ、日々活動しています。

このストーリーの主演は私たち職員ではなく、地域のみなさまです。私たちは裏から支える映画スタッフのようにこれかも支援を続け、新しいストーリーをお届けします。